

群馬県議会 リベラル群馬

県政の革命児!

後藤かつみ

2016年2月 議会報告

街頭演説 2200日

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
 住所 高崎市八幡町800-24
 TEL&FAX 027-343-1393
 e-mail ccrgoto@af.wakwak.com
<http://www.ccrgoto.com/>



会派を代表し、討論に立つ後藤かつみ

県政のチェック機関としての役割は放棄しない リベラル群馬、予算案に対し修正案を提出!

高崎・コンベンション施設計画

太田市長「採算に疑問」

県市長会長の清水謙一氏(太田市長)は16日、県が高崎競馬場跡地で進めている「コンベンション施設建設計画」について、県が示している経済波及効果の根拠が分らない、赤字になり結果的に県民に影響を及ぼした時に、誰が責任をとるか、非常に心配している。来年度の県予算に対する影響を大沢正明知事に手渡した後、県庁で開いた記者会見

最終日「賛成」大逆転

県意見公募

高崎競馬場跡地での「コンベンション施設建設計画」に反対する市民団体「建設を考える市民体」(パブリックコメント)で、最終日に賛成意見のメールが殺到し、反対意見の数を逆転して賛成意見の数が多かった。同会は「急激に賛成意見が増えるのは異様」と指摘。県は「どこかに動きかけた」とは一切ない」と説明し、「やらせ行為」を否定している。

※毎日新聞記事より抜粋

根強い懸念の声

もう一点は、「県民理解の不足」です。太田市、みどり市の両市長が採算性等に強い懸念を示していることは、重大な指摘として受け止めるべきです。また、昨年行われたパブリックコメントでも多くの反対・慎重意見が寄せ

リベラル群馬は、平成28年度予算案のうち、高崎競馬場跡地のコンベンション施設建設関連予算について、①建設コストが高騰している時期の建設は避けるべき。②全県的なコンセンサスを得られていないとは言えない。との理由から予算を修正し、①本格的なコンベンション誘致組織(ビューロー)を充実させる。②県民の意向を丁寧に調査する。の2点に、優先・集中して予算を充てるべきという提案を行いました。リベラル群馬は、建設計画に必ずしも反対姿勢ではありませんが、一貫して慎重姿勢を貫いています。理由は「税金を無駄遣いしてはならない」の一点に尽きます。

コスト高が余分な税負担を強いる

その観点に立った時、まず「コスト高」は無視できません。今、オリンピックや復興需要等による建設コストの高騰は本県も直撃しており、高崎市の新体育館も平時より2割以上高い金額で作らざるを得ない状況です。更には、そもそも県の計画している施設は、体育館や文化ホールなど違い、住民が直接に利用するのではなく、県外・海外からお客を呼ぶ目的の施設です。従って、わざわざ建設コストが高む時期に、県民の税負担を増やしても急いで作る必要性は無いと言わざるを得ません。

コスト高騰 県内市長も異論 の中なぜ急ぐ？

問題提起すらできない議会は、存在意義を自ら否定しているに等しい。納税者目線の修正案が、当たり前議論される議会を目指したい。



高い都市ブランド力を活かし、ハコものに頼らないコンベンション誘致に取り組む金沢市を会派で視察調査

「盲進せず、丁寧なプロセスを」

今、県当局も県議会の自民・公明会派も、こういった問題や指摘に目をつむり、数の力にまかせて「盲進」しようとしています。これでは良いものを作れるはずがありません。リベラル群馬は、「税金を大切に使う」という常識的な感覚があるならば、コスト高が最悪の時期を避け、時間をかけてでも、県民の声を丁寧に聞くプロセスを踏まえるのは当然ではないか、という、至極「当たり前」の提案を行ったにすぎません。知事の予算案に対し、こういった修正案が各会派から「当たり前」に提出され、議論を経てどんどん県民目線で修正して良い予算にしていく。そんな議会本来の役割を果たすために、リベラル群馬は果敢に問題提起を続ける所存です。

られました。余談ですが、締切前日に突如賛成意見のメールが殺到するという不可思議な現象も起きています。